

電力系通信事業者の再出発 トップが描く新キャリア像

再編の大きなうねりが起こっている通信業界の中でも、とりわけ去就が注目されるのが、原発事故の「喪」が明け、いよいよ生き残りを懸けて再出発した電力系通信事業者の動向だ。

地域で巨大な影響力を持ち、全世帯を掌握している電力会社を親会社とする電力系通信事業者には、「NTTの対抗軸」として、大きな期待が寄せられていた。だが、東京通信ネットワーク(TTNet)をはじめとする電力系地域通信事業者はいずれも低空飛行が続き、既存事業者を脅かすものとはならなかった。

モバイル・インターネット時代を迎えるなかで東京電力は、1999年11月にソフトバンク、マイクロソフトとの共同出資により、高速無線アクセスサー

ビス提供会社「スピードネット」を設立。2002年3月にはFTTHサービス「TEPCOひかり」をスタートさせた。99年にはパワードコムを設立。PNJ(Power Nets Japan)グループ10社を順次これに統合し、NTTに対抗できる全国規模の電力系通信事業者の核へと育てるべく、グループ内の交渉を開始した。「眠れる巨人」が活発な施策で動き出し、いよいよ誇ってきた全国規模の光ファイバー網を活かす時期の到来かと思われた。

だが、スピードネットは目に見える成果をあげる間もなくソフトバンクとの提携を解消し、相互不信感だけ残した。

また、2002年8月に発覚した東京

電力の原子力発電所のトラブル隠しは、以後1年以上にわたって、TEPCOひかりの積極的なプロモーション活動を控えることを余儀なくし、せつかくのFTTHサービスの出鼻をくじいた。

パワードコムも2003年3月、インターネットイニシアティブ(IIJ)との事業統合に向けた交渉が決裂。IJJはその後NTTグループの傘下に入り、面目を失う結果に終わった。

さらに、PNJグループの統合についても、2002年10月に「電力系通信事業者の合併構想が白紙に」というニュースが流れ、結局、TTNetとの合併のみが決まり、2003年4月に新生パワードコムとして再発足しただ

けに終わった。

光IP電話で電話事業を強化

原発事故の余波が収まった2004年に入って、IP・ブロードバンド時代に向けて動きを速めている通信業界の流れに追いつくべく、攻勢が再開された。

東京電力は、タレントの井川遥をイメージキャラクターに起用するなど、TEPCOひかりの積極的なプロモーションに打って出た。同時に2004年度末までに東京、神奈川、千葉、埼玉の50市にエリアを拡大すると発表。光ネットワーク・カンパニーの勝又淳旺プレジデントは、「電力会社にしか提供できない、生活インフラ系のサービスを投入する」方針を示した。

パワードコムは、7月1日にフュージョン・コミュニケーションズと電話事業を統合する。電力系の光ファイバー網とフュージョンのIP技術を組

み合わせた光IP電話サービスで競争力を身に付ける。同時に、ドリーム・トレイン・インターネット(DTI)とも事業を統合し、グループのISP事業をDTIに集約する。

M&Aも検討するパワードコム

東京電力はパワードコムの新社長に、初めて電力系とは関係ない人物、コンピューター業界出身の中根滋氏を据えた。「親会社からの天下りでは展望が描けず、新しいパワーで現状を打破したいという意欲の現われ」といわれている。

電力系の中核会社であるパワードコムは、2003年度の売上高が1693億円と、目標の2000億円を割り込んだ。経常赤字120億円、当期赤字143億円という不振に陥っている。フュージョン、DTIとの統合に表れるように、もはや抜本的な打開策が不可欠だ。

中根滋新社長は、他社と伍してい

くために必要な売上高の目標を1兆円に置くが、「自社だけで達成できる」とは考えていない」とM&A(企業の買収・合併)を視野に入れている。

そこでクローズアップされるのが、ソフトバンクグループとの連携の可能性だ。日本テレコムは、「合併がわれわれの期待通りの結果を産めば、パワードコムにも興味を持ってもらえるのではないか」と今後の連携に含みを持たせた。

だが、東京電力とソフトバンクは共同出資のスピードネットを運営した際、途中でソフトバンクが抜けて最終的に清算に追い込まれた過去がある。このため電力側にはソフトバンクに対する強いアレルギーがあり、「簡単には組めないだろう」と見られている。

ともあれ、電力系のコアとなる東京電力グループは、この7月から、再スタートを切ることになる。

ここで問題となるのが、FTTHインフラは東京電力、データ通信と企業向けサービスはパワードコム、IP電話はフュージョン、ISPはDTIというように、各サービスがバラバラに存在することだ。この点について東京電力の勝又プレジデントは、「社名やサービスブランドはそのまま、ユーザーから見て1つのサービスに見えるような仕組みづくりを4社で進めている」と説明。「7月中には形にしたい」と新たな策を打つ意向だ。(藤田 健)

図1 電力系通信事業者の強みと弱み

強み	
電力グループの支援	
全国規模の光ファイバー網	
信頼性、安定性のイメージ	
電力で培った技術力	
生活インフラ提供力	
弱み	
通信市場での独自性の弱さ	
営業力	
ブランドの不統一	
電力間の連携の弱さ	

図2 電力系事業者から見た通信業界再編の動き

